

～家族で、地域で、みんなで育む～ 共同参画 子育てBOOK

＼スマホからかんたんアクセス！／

松山市子育て情報サイト 子育てをカンガエルカフェ

ひとりで抱えないで！さまざまな相談先があります。

ライフステージ別支援

妊婦・出産

- 妊娠と診断されたら
- 出産に向けて(健診、制度、保健サービスなど)



乳児・幼児

- 赤ちゃんが生まれたら(様々な申請や健康保険について)
- 赤ちゃんの健康のために(予防接種や保健サービスなど)
- 子どもを預けるには



小学生

- 入学準備をしましょう
- 放課後や休日に利用できる施設
- 子育てに関する情報配信サービス



障がい児

- 手当や助成・制度
- 子どもが社会参加するためには



ひとり親家庭

- 手当や助成・制度
- 相談窓口



不妊

- 特定不妊治療を受けた方への一部助成
- 相談窓口



おでかけ情報

こんなことが載っています！

- イベント情報(松山市とその周辺地域で行われる子育て家庭向けのイベント)
- おでかけスポット(児童館・児童センター、公園、図書館、地域子育て支援事業拠点、みらいクラブ、子育てサロンなど)



子どもに関する相談窓口一覧

どんな相談ができる？

- 子ども総合相談、健康相談、発達相談などの子育てに関する相談
- 障がいのある子どもに関する相談
- ひとり親家庭に関する相談
- 認定こども園・幼稚園・保育所 虐待に関する相談
- 不妊に関する相談 など



〈この他にも、子育てに関する情報が満載です！ぜひご利用ください。〉

松山市子育て情報サイト 子育てをカンガエルカフェ
<https://kosodate-matsuyama.jp/>

お問合わせ

松山市 保健福祉部 子育て支援課
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2 別館2階
TEL:089-948-6418 FAX:089-934-1814
Mail:kosodate@city.matsuyama.ehime.jp



松山市男女共同参画推進センター・コムズ

相談室 相談は無料です。秘密は厳守します。

コムズ相談室には、さまざまな悩みが寄せられます。人の悩みはそれぞれ違いますが、中には身動きが取れずに立ちすくんでしまっている人が少なくありません。コムズ相談室では一人一人の気持ちをありのまま受け止め、ご自分の足でまた一歩を踏み出せるよう、一緒に考えていくお手伝いをしています。まずは、どんな悩みでも話してみませんか？お電話お待ちしています。

コムズ相談室 HP

詳しくはコチラ！



まつやまファミリー・サポート・センター

“助けてほしい”“お手伝いしましょう”そんな気持ちの橋渡し

「まつやまファミリー・サポート・センター」は、育児の援助、高齢者等に対する軽易な介護等の援助を受けたい方と、それらの援助のできる方からなる会員組織です。困ったなと思った時に登録していると安心です。

まつやまファミリー・サポート・センター HP

詳しくはコチラ！



アクセス・お問い合わせ先

松山市男女共同参画推進センター COM+S (コムズ)

所在地 〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目4-20

開館時間 火～土曜日 9:00～21:00 / 日・祝 9:00～17:30

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日

TEL 089-943-5776 / 5777 FAX 089-943-0460

E-mail coms@coms.or.jp URL <https://www.coms.or.jp>



P30台程度 ※駐車場には限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

子どもも親も可能性ひろがる育児

子どもが育つ環境と大人たち

乳幼児期の子どもが育つ環境には、様々な人や物があります。親をはじめとする身近な大人の言葉や行動が子どもに影響を及ぼすことは言うまでもありませんが、親たちは子どものために(子どもに代わって)衣服や日用品、絵本・おもちゃのような文化財、さらには保育所・幼稚園などを選択するという点でも大きな責任をもちます。子どもにとって良い環境とは何か、自分たち親子にとってはどうか。情報や商品があふれるなかで、また、親の生活が多様な中でその「選択」は同じではないでしょう。自身や地域の親が選べる「選択肢」が少ないと感じたならば、子育て当事者からの情報発信をする行動も考えてみましょう。悩みを相談することも1つの情報発信になります。また、忙しい子育て期でも、仲間を得ることで行動を起こすハードルは低くなると思うのです。私自身、保育所の保護者会や地域で、一人ではできない発見や活動ができ、子どもの友達関係を気にする大人達の仲間づくりこそがとても大事だと感じています。

親が育つとは

「男性が外で働き、女性が家事・育児を担う」という性別役割分業は、今の子どもたちが成人する社会では、さらに縮小していくことでしょう。近年では、1対1の母子間の愛着を

愛媛大学 教育学部 教授 金子 省子さん

新潟県出身。お茶の水女子大学大学院修了後、1985年より愛媛大学教育学部教員。愛媛大学では保育の分野やジェンダーに関する科目等を担当している。現在、愛媛県子ども・子育て会議委員。



捉える母子関係研究から、多様な家族環境を念頭に、父親や祖父母をはじめ保育者など子どもを取り巻く様々な人間関係の影響を捉える研究へとシフトしています。一方、大人にとっての子ども・子育て経験の影響にも関心が高まっています。保育士などの専門職に求められる客観的な条件も、客観的評価も親にはありません。だからこそ、これよりよいのだと開き直ることもでき、これよりよいのかと抱く不安への答えも一人では得られません。子育てで大人が得る力は、人により異なると思いますし、時に専門家の力を借りながら、親同士のかかわりのなかで、自身の子育てや自身の変化を認識する手がかりが得られると思うのです。

次ページへつづく

目次

- 子どもも親も可能性ひろがる育児 愛媛大学 教育学部 教授 金子 省子さん P.1～2
- チームで子育て NPO法人 子育てネットワークえひめ 代表理事 山本 由美子さん P.3
- 育児日誌 私が子育ての楽しさを知ったとき NPO PaPa'n 代表理事 伊藤 悟志さん P.4

応援メッセージ 頑張るあなたへ P.5
子育ても仕事も“想定外”だらけ、想定外こそキャリア！ 特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ 代表理事 堀田 真奈さん
いつも笑顔になれなくていい。100点満点じゃなくていい。意識して自分に優しい声かけをしましょう。
松山市NPO登録団体 アドラー心理学愛媛 代表 清水 さゆりさん

- 地域も育児を支えます！ P.6～7
- 愛着関係 ～人への関心、子育てって～ えひめこどもの城 園長 敷村 一元さん
- 楽しい遊びは 生きる力につながっていくのです！ NPO法人 松山子ども劇場21 理事長 中矢 操さん
- 子どもと絵本を開くとき 絵本専門士・元公共図書館司書 渡部 愛さん

松山市子育て関連情報 P.8

ジェンダーに敏感な視点から

父親の育児参加という言葉や、ことさらな「イクメン」という言葉があるように、父親は補助的な養育者とみなされがちです。母親の負担感、「お父さんなのに、えらいですね」と言われてしまう父親の口惜しさ。ひとり親の感じる思い。子育てについて女性にしかできないこと、男性にしかできないこと、産んだ親にしかできないことは何なのか。こう問うてみても、現実の多様な環境を考えれば、「誰が」ではなく、「何が」できているのかを問うことが求められているのです。

女子のみ必修の高校家庭科世代が、男女共修の家庭科の教科書を見れば、その変化に驚くことと思います。現在の高校家庭科では、「母性」ではなく、「親性」や「育児性」など男性を排除しない、いわゆるジェンダーにとらわれない表現が使われ、男女共同参画社会や子どもの権利条約、児童虐待などの今日的な問題についても性別にかかわらず学んでいます。

幼い子どもの文化財にも変化は確実にあらわれています。日本でも放送されている『機関車トーマス』には、国際色豊かな機関車や女の子の機関車が仲間入りをし、海外では人種やジェンダー、障がいなどに配慮した人形の販売もされています。また、若い世代に目を向けると、ここ数年のドラマの影響は大きく、教育現場の取り組みもあいまってLGBT(性的少数者)に強い関心をもっていることがうかがわれます。

自分や周りの人の性別を理解し始める幼児期には、その社会の「ジェンダー・ステレオタイプ」(女性とはこういうもの、男性とはこういうものという見方)を身に付けはじめ、学童期には、いろいろな情報に触れて柔軟な理解も身に付けていくと言われます。親をはじめとした周りの大人の言動も、子どもに影響を及ぼすことが知られています。

絵本の中にも、強い男の子像に悩まされる男の子、男性が多数を占める職種の母親を描いた絵本など、ジェンダー・ステレオタイプに苦しんだり、これを変えるような登場人物を見ることができます。「アリーテ姫」は、知恵と勇気の人ですし、「のはらひめ」は自分らしさを探し続けます。「ふたりママの家」の同性カップルと養子たちとの生活には、居心地のよさそうな温かさが描かれています。多数の側から、マイノリティを許容するのではなく、自分自身を含めて多様性を理解することが、その人らしい生き方を尊重することにつながることを、子どもの文化財から大人が教えられたりもするのです。

子育ての時期は、大人にとって、自分と向きあうチャンス
の時期でもあります。ジェンダーへの問いは、その手がかり
を与えてくれるのではないのでしょうか。



おすすめの絵本

松山市男女共同参画推進センター・コムズ 2階図書コーナー



アリーテ姫の冒険

著:ダイアナ・コールス 絵:ロス・アスクイス
訳:ブルーウィメンズ・プレイス
監訳:公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
出版:大月書店



のはらひめ おひめさま城のひみつ

作・絵:なかがわ ちひろ
出版:徳間書店



ふたりママの家

絵・文:パトリシア・ボラッコ 訳:中川 亜紀子
出版:サウザンブックス社

ここで紹介している絵本をはじめとし、いろいろな絵本をそろえています。キッズスペースもございますので、ぜひ、お子さんと一緒にお越しください。

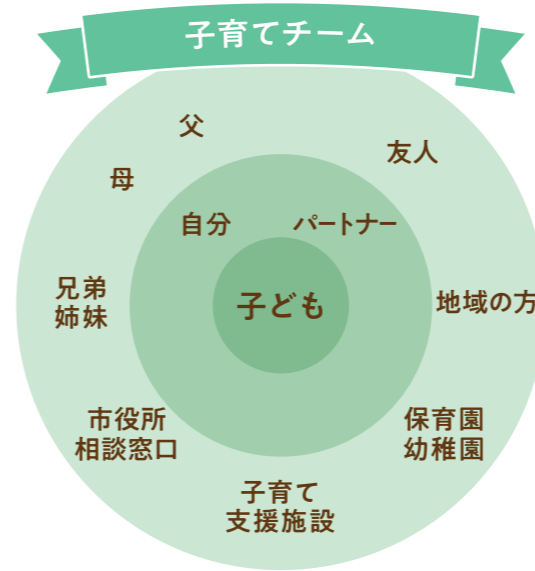
チームで 子育て

NPO法人 子育てネットワークえひめ 代表理事 山本 由美子さん

福岡県出身。長男が1歳の時、子育てサークル仲間と次世代の子育てを応援したいとボランティア活動をスタート。その後、親の気持ちに寄り添う子育て支援活動の必要性を感じ、平成12年NPO法人子育てネットワークえひめを設立。乳幼児親子が集まる場「もうひとつのおうち」をコンセプトに子育てひろば活動に積極的に取り組む。4つの子育てひろばの利用者は50,000名。

NPO法人 子育てネットワークえひめ HP

子育てネットワークえひめ(通称conet)は、愛媛の「頑張るママの応援団」として子育てに優しいまちづくり・人づくりを目指しています。



「核家族で共働き」という家庭がとて多くなりました。また、小さな子どもと接する機会があまりないままに大人になり、結婚して親となり子育てがスタートする方も増えています。そんな状況の中での子育ては、いろいろな人の手を借りることが必要です。

まずはいちばん身近で頼れる存在である「夫婦」が軸となり、お互いに協力することが一番だと思います。子育てに主体的に取り組むパートナーもいますが、そうでない人もいます……でも心配はいりません。これから、子育てチームの一員としての意識を育てていけばよいからです。子どもの成長と同じかもしれませんが、親としての成長も、「子どもと私たちの成長はどっちが先かな?」くらいの気持ちで気長にやっていきましょう。

パートナーへの言葉かけは前向きに

誰だってそうですが、やったことのないことは「できるかな?」と不安や苦手意識があります。なので、パートナーがやったことを認めて感謝の気持ちを伝えましょう。子育ても同じですから、パートナーを認めることは子育てレッスンにもつながりますよ。「上手!」「ありがとう!」だけでなく、具体的に言葉にすることが有効です。例えば子どもの着替えができたなら「いつもグズグズ言って時間がかかるのに早いわ~」とか「お洋服の組み合わせがステキね」、お散歩に出かけて帰ってきたら「お散歩楽しかったのね~表情がすごくいいね~たくさん遊んでもらったからやね」と子ども

のよい反応を言葉にすることでパートナーは、自分の役割に自信を持ち、また頑張ろうときます。

定期的にミーティングを

「子どもをどんなふう育てたいか」「どんな体験を与えていきたいか」「親としてどんなかわりを持ちたいか」など、親同士が共通認識をもっておくと、スムーズに協力し合うことができます。それは親としての価値観ともいえるでしょう。子育てチームが同じ方向を向くためには、夫婦で話し合うミーティングがとても大切です。落ち着いて大人同士で話す時間はとても大切ですので意識して機会を持ちましょう。



子育てチームを広げよう

「ワンオペ育児」という言葉が生まれるほど、一人で育児を抱えてしまっている方は多いです。私も、そのようなママをたくさん見てきました。実家が県外だと、遠くに住む親より近くの友人の方が頼りやすいということもあります。とにかく自分一人ですべてを抱え込む必要はないのです。子どもにとっても親と離れる時間は、たくさんの経験の場になり成長につながっていきます。自分やパートナーの親であったり、地域の子育て支援施設、役所の相談窓口など地域資源を大いに活用しましょう。





私が子育ての楽しさを知ったとき

私は、会社員で2児の父です。私の子育ては、妻の後方で「必要ならばしぶしぶ動く」サポート役からのスタートでした。その頃の私は、「家事育児は女性がするもの」と自然と思い込んでいました。そんな中、育児休業は男女変わりなく取得できると知り、「妻にモテるかも!」という理由から育児休業を取得しました。社内初の男性育休取得を妻に提案したところ「いいじゃん!取ってみようよ!」と明るい返答で私の背中を押してくれました。

初めての育児は戸惑いの連続

娘は後追いの激しい時期、伝い歩きで見ていないと不安!寝かしつけに1時間かかり布団に寝かすと5秒で起きる!仕事へ行った妻に「僕はいつトイレに行けばいいの?」と電話をしていました。娘が高熱を出したときには布団で寝るのを嫌がるので抱っこしたまま3日間、親子汗だくになりながら過ごしたのも今となってはいい思い出です。この頃から娘がパパの存在も認めてくれるようになりました。



子育てをするほど娘が求めてくれる感覚、言葉でどう表現したらいいのかわかりません。具体的には「だっこはママがいい!」だった娘が「パパもママも両方いい!」に変わっていました。育児のサポート役から、一緒に育児を行う感覚に変わったのもこの頃です。今まで子育てのサポートをしていたものの子育ての大変さを知らなかったのと同時に、楽しさも知らなかったのだと思います。

育休の間、夫婦でゆったり育児をできたこと、子育てを学べたこと、そして何より寝返りやハイハイ、離乳食やつかまり立ちなど、子どもの成長を逃すことなく見られたことは、これまでの人生で感じたことのない幸せな時間でした。

最近では育児をする男性が増えていると感じていますが、育児休業取得率は女性の80%台に対し男性は6%台と依然低く取得期間も1週間以内が約6割と取得の内容にも大きな違いがあります。



これから育児をする男性には、ぜひ育休取得を強くお勧めします。

子どもが生まれるとパパは1年生です。会社で言うところの新入社員のようなもの。親になったからにはどんな形であれ「子育てをしない」選択肢はありません。会社に入る新入社員も研修を受け仕事を学ぶように、子育ても徐々に学び経験を積んでいくものです。お母さんである妻も、女性だから子育てできるのではなく、自ら学び経験を重ねるとともに、人一倍の責任感で頑張っているのだと思います。つまり、子育てのスタートは夫婦同じ!

育休で仕事を休むとキャリアを気にする方も多くいますが、子育てをすることで磨かれる人間力(段取り力、コミュニケーション能力、忍耐力、視野の広がり)は仕事にも生かせます。子育てという経験は、他では学べない大きな財産になります。

ならば私たちのように、チームである夫婦で絶対の正解はない子育てを「人生の自由研究」ととらえ、トライ&エラーを繰り返してみたり「夫婦で楽しむエンターテインメント」として子育てを楽しんでみたりしてはどうでしょうか?

人生100年時代。育休取得を最長で取得しても100年分の1年。その1年で大きく幸福感は変わりますよ。同じ父親として、親になる期間を有意義で楽しいものにしていきましょう!



NPO PaPa'n 代表理事 伊藤 悟志さん

平日は一般企業の会社員。休日、NPO代表として活動しています。2児の父親として楽しい毎日を過ごしています。2度の育休取得。時間短縮勤務を経て、現在フルタイム勤務中。子育てに興味のなかった私が子育て中心の生活をしています。



NPO PaPa'n HP

パパパは、パパも子育てを楽しめる環境づくりを行っております。パパがより子育てに関わることで【笑顔広がる社会】を目指して活動する父親支援団体です。



子育ても仕事も“想定外”だらけ、想定外こそキャリア!

子育ては“想定外”だらけ。

子どもの誕生で、物事の優先順位が大きく変わり、生活様式・仕事の在り方・自分の価値観が変わった方も多いのではないでしょうか。私は、結婚後に妊娠しにくい体であることがわかり、不妊治療をし、子どもを授かるまでに7年かかりました。

育児休業中は、「読書や写真整理をしよう!」と思っていましたが、考えが甘く、睡眠不足、疲労困憊で何もできませんでした。

仕事に復帰し、「両立ガンバろう!」と思っていましたが、子どもの急な熱、仕事への影響(迷惑をかけているのでは感)、目まぐるしくこなす家事、自分の時間がない、両立という言葉が遠のいていく日々。そんな想定外もありました。

我が子に出会い、深い愛情だけではなく、子どもが泣き止まないことに腹を立てたり、小さな“できた”を見つけて喜んだり、思い通りにならないことに何度も泣いたり、大人になって初めて感情の揺れ幅の広さを経験することもあるでしょう。そんな自分を否定せず認めていくこと。「こんなこともあるんだ!」と世の中や他者を理解すること。なぜこうなんだろうと疑問を持つこと。このプロセスも“キャリア”です。私たちはこの経験で成長しています。この経験が仕事にも活かされ、職場環境を変えていくきっかけになった先輩パパママたちが、たくさんいます。今のままで大丈夫!仕事も生活も想定外も一緒に楽しみましょう!

特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ 代表理事 堀田 真奈さん

大学卒業後、旅行会社営業職で約8年勤務。複数の転職を経て平成21年にワーク・ライフ・バランスをテーマにNPO法人を設立。県内企業500社以上訪問、女性の活躍や働き方変革のニーズを拾い具体的な支援や提言に取り組む。1女1男の母。平成28年度内閣府「女性のチャレンジ賞」受賞。



特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ HP

“仕事も生活も楽しもう!”を掲げてワーク・ライフ・バランスで愛媛を元気にしよう活動しているNPO法人です。人と企業とまちをつなぐことを役目とし、存在しています。



いつも笑顔になれなくていい。100点満点じゃなくていい。意識して自分に優しい声かけをしましょう。

たくさんのママやパパと関わって気づいたのは、理想が高すぎて苦しむ人が多いこと。私も前は、常に笑顔の優しいママが理想でした。

長女が3歳、長男が1歳の頃、私はよく熱を出したり、抱っこしすぎて体を痛めたりしていました。無理をするのが当たり前。人と比べて自信が持てず、いつもイライラママでした。

そんな時出会ったのが、アドラー心理学でした。アドラー心理学は横の関係を大切にします。指示・命令・おどしではなく、共感・信頼・尊敬し合う関係。友だちに言わないような言葉は家族にも言わない。勝ち負けや上に立つ必要はないんだと気づきました。

子どもは身近な大人をモデルとしてマネをします。子どもが疲れたとき、笑顔で無理してほしいですか? SOSを出してほしい

のではないのでしょうか。

子育てに正解はありません。自分を否定する必要はありません。時間や心の余裕がないときがあっても当たり前。怒りすぎたときは、あとでフォローすればいい。イライラは愛情の証。怒りの根底には焦りや心配などの感情があります。「私は」から始まる“私メッセージ”で「私は心配」「私は〇〇して欲しい」と伝える練習をしてみませんか?

今は、自分にダメ出しをやめてヨイ出しをしていると、まあいいかと思えることが増えました。親が「〇〇でなければ!」にとらわれず、自分にマルをして、ゆる～く関わるくらいがちょうどいい。子どもが育ちますよ。私も練習中。ときにはユーモアや笑いを大切に。練習していきましょう。

松山市NPO登録団体 アドラー心理学愛媛 代表 清水 さゆりさん

小学4年、小学2年、2歳の3児の母。元・超人見知りのネガティブママ。イライラや自己肯定感の低さに悩み心理学を学び、職場での人間関係や夫婦関係も楽に!資格を取得し悩み解消のサポートを行う。今では楽しく子育て中!



アドラー心理学愛媛 HP

アドラー心理学愛媛は、心理学を通じて、家庭や職場など身近な人や自分自身とのコミュニケーションをより豊かにするためのきっかけになればという思いから結成されました。子育て世代を対象にした講座も。



地域も育児を支えます！

愛着関係 ～人への関心、子育てって～

子どもが色々なことに興味関心を示し、やってみたいという気持ちを持てるようになるためには、**愛着関係・子育て***、**友だち**が大きく影響します。

※「子育て」は大人の視点。「子育て」は子どもの育ちを中心に捉えて、大人がどう環境をつくっていくかということ。自ら学び、育とうとすること。

愛着関係

赤ちゃんが順調に発達するためには、赤ちゃんにほほ笑みかけながら授乳したり、優しく語りかけながら抱っこするなどの**日々のかかわりが大切です**。この積み重ねが、親子間の温かい絆をつくります。これを愛着関係といいます。

赤ちゃんが人見知りをするようになるのは、愛着関係がきちんとできている証拠です。愛着関係は人への信頼感の土台となり、そしてパパ、祖父母、兄弟など、ママ以外の人たちが愛着の対象となり、人に対する信頼の輪が広がっていきます。そして、友だち等との関わりの中で失敗などを繰り返しますが、親などの愛着関係のあるところに戻り、心を癒し安心感を蓄えて、また外の世界に踏み出すことを繰り返すことができます。これが「やってみたい」という気持ちになります。



人への関心

一般的に、子育てを経験したひとも含め、親の育て方が、子どもの人生を決めると強く信じられています。そしてこれが、子育て中の親(とりわけ母親)にとって強い心理的負担となっています。子どもが社会や学校に適応できなければ、それはすべて親の責任と言われます。

でも、現実には、親の育て方が影響するのは数パーセントとも言われています。なぜなら子どもは、友だち関係を優先して親のいうことをきかないように「進化論的にプログラムされている」ということです。

出典:『子育ての大誤解(新版)上——重要なのは親じゃない』『子育ての大誤解(新版)下——重要なのは親じゃない』著:ジュディス・リッチ・ハリス 訳:石田 理恵 2017年8月、早川書房

育児書の指示どおりに育てても、**同じ結果にはなりません**。当然、容姿も性格も違い、言葉の早い子遅い子、進んで子どもの輪の中に入る子もいれば、いつまでも母親から離れない子もいます。

元気な子と比べてとき、親は気をもむことがあります。しかし、逆に観察力を養っているのかもしれない。家に帰れば、友だちがやっていた遊びをしてくれたり、歌を歌ってくれたりする子もいます。子どもは周りをすぐ見ている、影響を受けその環境に合わせてようとします。そして様々な人との関係の中で経験をしながら成長していきます。



親にできることは

子どもには愛情が必要だからと子どもを愛するのではなく、**いとおいしいから愛する**。子どもと過ごせることを楽しむ。自分が教えられることを教えてあげる。**気を楽しんでもって、子どもがどう育つかは、あなたの育て方を反映したものではありません**。子どもを完璧な人間に育て上げることもできなければ、墮落させることもできない。それはあなたが決めることではありません。

笑顔でいることが一番大事!笑顔は家族に広がります。そして、家族が笑顔でいると、子どもの表情も豊かになってきます。**笑顔が一番!頑張りすぎないでいきましょう**。



えひめこどもの城 園長 敷村 一元さん

愛媛県松山市出身。児童健全育成指導士、保育士、社会福祉主事。地域と子どもを繋ぐ活動の一環として、PTAや公民館、子ども会などでコミュニケーションワークショップ・劇団「夢邪気」の公演・表現あそびワークショップなどを実施している。著書に「遊びからはじまる学び」—今、幼児の表現活動を問い直す—「遊びの宝箱」がある。



えひめこどもの城 HP

えひめこどもの城は、各年代の子どもが興味・関心などニーズに応じてあそびが選択できるよう、色々な体験ゾーンを設けています。城郭風の建物「あいあい児童館」は、お子さんと楽しく過ごせる空間になっており、臨床心理士による子育て相談も特設されています。四季折々のイベントも開催。ご家族お揃いでご来園ください。



楽しい遊びは 生きる力につながっていくのです!

「子どもと一緒に、どこかに行きたいな」と思うことはありませんか?とくに子どもが小さいうちは毎日やることがあり過ぎて子育てを楽しむ余裕もないけど、お家にばかりいたくない!そんな時に『子ども劇場』が力になればいいなと思います。

松山子ども劇場21は子どもたちに

●演劇や演奏などの『舞台芸術』のライブ鑑賞を重ねながら、感受性や想像力を豊かにすることで、自分の気持ちを伝える“言葉”をみつめてほしい。

●『キャンプやレクリエーションなどの自然体験』や『創造的な遊び』をして“発想力”を、また上手いかわなくても諦めない“やり抜く力”をつけてほしい。

●命と暮らしに結びついた『講座』や色々な人との『交流』などを通して、世界を広げてほしい。

こんな願いを持った人たちが、地域の居場所としての集まり

をつくっているところです。

子どもたちがたくさんの体験をして、互いに理解し合い感情をコントロールできるようになることは、“生きる力”の要素の一つです。

今、日本の教育は“IQ(知能指数)”重視から、**数値では測れない“生きる(生き抜く)力”を伸ばす方向**に変わりました。そして、そのためには小さいうちから様々な体験をすることが有効と言われています。

AIと共生する時代に人間が活躍できる力をつけるには、やる気のもとになる**「楽しい!うれしい!ワクワクする!」**経験が大切です。すぐに成果は見えないけれど、一緒に楽しみながら子どもたちの成長を見守りませんか。



NPO法人 松山子ども劇場21 理事長 中矢 操さん

1958年 愛媛県西条市生まれ。県立小松高等学校卒業。
1988年 任意団体「松山子ども劇場」に5歳になる長女と入会。
2002年 「NPO法人松山子ども劇場21」スタートより理事長、現在に至る。



NPO法人 松山子ども劇場21 HP

これからの時代に生きる子どもたちに、さまざまな体験を届けます!“アート”が強みを発揮する社会で活躍する人を育むお手伝いをします。お子さんと一緒に、ぜひ遊びにきてください!



子どもと絵本を開くとき

赤ちゃんに絵本を見せながら語り掛けると、赤ちゃんは「あー、うー」という喃語とともに、手足をバタバタさせ、体いっぱいその喜びを表現してくれます。赤ちゃんの体の成長にミルクが必要のように、**赤ちゃんの心と言葉の成長に欠かせないもの、それが“言葉がけ”です**。幼児期の絵本はたくさんの“言葉がけ”を応援し、親子のコミュニケーションを深めるためのものです。

子どもと絵本を読むということは、子どもに**「あなたのことが、大好きだよ」と伝えること**。大好きな人の膝に座り、大好きな人の声で、その人の心も添えて読んでもらうことで、子どもたちは、自分がとても愛されているかけがえのない存在であることを感じとっていきます。親子で絵本を楽しむ時間は、ぬくもり

に満ちた温かな時間となり、子どもたちは絵本の楽しさと一緒に、その幸せな記憶を物語に重ねていくでしょう。絵本を読んでもくれる人がそばにいて、読む人が共に楽しみ、物語を共感してくれる時、絵本は子どもたちを、素敵な世界へと誘います。昔の世界、魔法の世界、未知の世界。いろいろな世界を歩きながら、子どもたちは自由になり、心を軽やかにしていきます。そしてそこで味わう体験や感覚や感情は、**子どもたちの成長の糧になるに違いありません**。

どうぞ、ご家庭で子どもたちと絵本を。お父さん、お母さんとの“おはなし”を子どもたちは待っています。



おはなしと出会う場 “おはなし会”

地域の図書館、公民館、児童館などでは定期的におはなし会を開催しています。おはなし会では、絵本の読み聞かせの他、ストーリーテリングや紙芝居、小道具を使ったお話を聞くことができます。家庭とは違った雰囲気の中で、同じお話を聞くことで、同世代のお子さん同士のコミュニケーションの場ともなっています。

絵本専門士、元公共図書館司書 渡部 愛さん

愛媛県内の図書館や児童館、保育所、幼稚園、小中学校等で、子どもたちに読み聞かせやブックトーク等の読書支援活動を行う。はじめての絵本講座、読み聞かせボランティア養成講座講師。



松山市内図書館一覧

絵本も沢山そろっています。お子さんと一緒に読みたい本が見つかるかもしれません。ぜひ図書館をご利用ください。

